

712 漫録（矢野恒太・相互主義に就て（承前完））

〔『法学新報』第32卷7（367）号 大正11年7月5日〕

漫 録

○相互主義に就て（承前完）

第一生命保険相互会社社長 矢野恒太

相互組織を經營して行くと先づ第一に斯う云ふ事を考へなければならぬ、進んで新しい会員を得ると云ふ事よりも、今現に持つて居る会員の利益を第一に考へなければならぬと云ふ事でもあります、さうして營業上の利益を挙げるにも絶対的利益よりも比較的利益を挙げて行かねばならぬ、絶対的利益からいへば百万円の利益あるよりも二百円の利益がある方が宜い、一円でも利益の多い方が宜い。然るに比較的の利益が多いと云ふ事はどう云ふ事であるかと云ふに、之は一億円の契約を有つて居つて百万円の利益を挙げるが宜いか、二億円の契約を以て百五十万円の利益を挙げるが宜いかと言へば一億円で百万円の利益を挙げた方が宜い之れは吾吾会員が仮りに同じ契約を同じ時にしたと見て、一万人の会員があつて毎年百万円の利益が挙げつて百円宛の利益を戻して呉れるが宜いか、二万人の会員があつて毎年百五十万円の利益を挙げ七十五円当て戻して呉れるが宜いかと言へば、申す迄もなく百円宛戻して呉れる会へ這入る方が宜いに極つて居る、絶対的に言へば百万円の利益があるよりは五

十万円だけ多く百五十万円の利益がある方が宜いが、比較的に言へば百万円の利益があつて会員が一人しかなく一方が二万人の会員のあつて百五十万円の利益があるものよりは利益が多いのである、此絶対的の利益を比較的の利益と云ふ事に着目して来ると云ふと相互会社と云ふものは多少利益のある所に向つても進んで行く事を躊躇しなればならぬ事が非常にある、利益のある所に向つても進む事を躊躇すると云ふ事はどう云ふ事であるかと云ふと、事業を普及拡張させると云ふ事に就いて、之を此方面に拡張すれば是だけの経費が掛る其地方の人は之が普及すれば之れだけ利益を得るだらうが其普及をする為に今迄這入つて居る人の利益を減じて来る、従つて普及すべき所へ普及の力を及ぼす事が出来ないと云ふやうな事が出来る、忠実に相互保険の重役たる頭を以て考へて見れば——自己の事業が大きくなつて賞与金を一円でも余計貰ふと云ふやうな考がない限りは——比較的の事を考へて成べく経費の掛らないやうに成べく会員の為に利益の多からん事を考へて経営して行かなければならぬ、さう云ふ経営方法の下に保険事業の普及を図ると云ふ事は非常にむづかしい之に反して営業的の会社になれば株式の利益を保護するのが最後の目的であつて相互会社と同じやうに被保険者に利益を戻すと云ふやうな事は、どう云ふ事であるかと言へば唯営業上の一箇の方便に過ぎない、それ故に百万円の利益があるよりは百五十万円はさて置き百二十万円でもよい利益の多い方へ傾いた方が宜い今迄遣つて居る事業の上に少しの困難はあつても其所に手を延して行けば一円でも利益があると言へば矢

張其所へ手を延して行つて一円でも多く利益を得やうとする、併しさう云ふ事が余り極端に進んで行くと自分の事業の会社の比較的の利益が減つて来る、比較的の利益が減ると相互会社との關係上相互会社の配当に比例して株式会社配当が少なくなるから比較的の利益を眼中に置かぬと云ふ訳には行かぬが、どちらかと言へば山間僻地如何なる所へでも踏込んで行つて保険の宣伝をしようと言ふ精神はどうか云ふ所から起るかと言ふと、此営業上の射利的精神から少しでも多く利益を得たいと云ふ考に刺戟されて起るのであります、さう云ふ事は一面かち見ると大変宜い事である、例へば倫敦は非常に信用組合の盛んな所であつて、英国程購買組合の普及して居る所はないと言ひますが、吾々が倫敦へ行つて買物をするには普通の商売人から買ふので、他国人は英国へ這入つても信用組合の存在すら何処に在るか認められない位である、然るに購買組合の講義をする人から聞くと英国の物貨供給は悉く信用組合でやるやうに講義をされるのであります、一向さう云ふ傾はない、矢張多く物資の供給と云ふものは商売人の手に依つて為される、そこで一つ考へて見る、例へば是だけの人が一緒に何処かへ移住して其土地の物を買つて見ると高いと云ふので、購買組合を拵へるも宜いが、何もそんな事をしないで電話を掛けさへすれば酒でも米でも炭でもすぐに持つて来て呉れる、それで其価格が余り高くなつたからと云ふので組合を拵へて遣つて見た所が、之は唯敵身的に働いて呉れる熱心家が居れば其人の居る間は品物が安く買へる代りに其人の為に始終信用組合員は御辞儀をしなければ

ならぬそんな真似をしないで、慥窓を喰はせながら買った方が矢張進んで居るぢやないか、日本と云ふ国が何をするにも組合でも拵へて世話をする者があつて御辞儀をしながらでなければ品物が買へないやうな国になるのが宜いか、夫とも其所等に在る店で何も言はずに勝手に買つて来て、其店では相当の利益を取つて、營利の為に全幅の注意を払つて遣つて呉れて、別に会員などを作つて遣るよりも、もつと安く仕入れをして来て、吾吾に良い物を供給して呉れる、何も苦勞せず自由にとんな物でも買へると云ふ方が善いかは考へ物である、商人が暴利を貪るから御互に聯合して費用を出し合つて生産者から直接に買はうぢやないかと云ふ事にするのが果して文明国であるかどうかと云ふ事は、余程考へて見なければならぬ、さうすると此相互保険などと云ふよりは若し株式会社が吾々の努力する以上に努力をして呉れさへすれば、よいではないか自分の利益と云ふ事のみを營利的に考へて心配する者が集つて、総ての事を營利的に遣つて行く事が出来れば、其方が却つて完全なものに近くなつて行きやしないか、若し何も彼も營利に一任しちやいかぬと云ふ議論になると非常に世の中はうるさい事になる、此頃の傾向は國家主義が余程盛んになつて来て、社会政策だとか平等であるとか法律であるとか云ふやうなものが声を擧げて来たが、之は階級者の道德である、強者は落伍者とならずにずんずん先へ立つて行ける、斯う云ふ者には法律も道德も平等も何にもない、唯自己の自由あるのみ、自由さへあれば自分の思ふ通りの事をして行けるのでありますが、之れでは世の中

が遣り切れぬから弱者が集つて法律だの平等だのと盛んに主張するやうになつて来て、此所から内へ這入る可からず、此所を通つちやいけないと云ふやうな事を極めて強者を押退けると云ふ風潮になつて来て居るけれども、月謝を取る事は罷めて互に机などを持寄つて教員の給料なども互に出し合ひ別々に学校を造らうぢやないかと言つて相互主義が行はれて来る事になつたら面倒で溜らぬと思ふ、此頃は又普選と云ふ事が出て来て、國民悉く政治思想があつて、政治に参与しなければならぬやうにいふが、私も一種の普選論者であつて普選論者からも、普選反対論者からも賛成者のやうに思はれて居るのであるが、私は國民の誰でもが政治に参与して宜いと思ふ、御維新当時は政治家は言ふ迄もないが、学者なども勤王の志厚きものは政治に容喙した、又御坊さんなども国事に奔走したものである、否百姓の子でも町人の子でも女郎でも芸者でも苟も勤王の志ある者は普選以上を遣つたものである、さう云ふ事は洵に良い普選であると思ふが、此頃は政治思想のない者を日当幾ら出すから投票しろと云ふので引張つて来て、多数連れて来た奴が偉いのである、是が与論の集まる所であると云ふことになる、此頃は矢張強者の道德で多数買収する力のある奴が優勝者で投票を沢山集める事の出来ない奴は劣敗者だと云ふ事になるだらと思ふ、其所らを煎じ詰めて行くと結局此頃は理想相と云ふ事のみ走つて、どうも商売人などは怪からぬものだと云ふ考から購買組合などを造るにも当るまいと思ふ、之は自分の慚悔話をするやうですが、自分が日本の保険事業が余りに營利的に傾いて居る

と云ふ事を極端に悪く言つた時代があるが、冷静に能く考へて見ると之は矢張營利的に傾過ぎて居つた事は確かであるが、今日では日本の吾吾の同業者も会社のみで利益を壟断するやうな会社はなくなつて仕舞つたオールドイングリシシス^マテムの会社が皆ミキストコンパニーに變つて仕舞つたのであります、さうすると今一步進んで吾吾が斯の如くしたいと言つて模範的に働いて居りますのと同じやうな結果を挙げて、吾吾に対抗する位の利益をも配当して総ての保険会社が遣つて来れば、吾吾は相互組織と云ふものを撤廃して仕舞つても宜いと思ふのである、然るに世界の大勢は其所迄は進んで居ない殊に亜米利加の如きは人氣がデモクラシーに非常に傾き易い国でありますから、近年に至つては保険会社なども統統株式組織より相互組織に更へて居ります、是等は株式会社としても僅かな株ですから利益を多くとりさへしなければ何も組織を變更しなくても其結果は殆んど同じ事であるけれども、人氣が相互の方にあるので、其人氣に従つてさう云ふ風に改めたのだらうと思ひます、此点は日本に於ても是から先相互が盛んになるか、株式が盛んになるかは一にどちらかの勉強振りに依るので、相互の方で株式組織の会社に追従を許さなければ、相互の方が常に優勝の地位^地を占めて行くのである、之に反して株式組織の方が如何なる山間僻地に迄這入つても利益を取つて普及させる、それが非常に長く行けば、之は大体に於ての舞台が大きくなる、即ち其適切なる例を挙げて見れば私の会社などは一の本店があるだけで代理店なるものは一つもない、代理店なるものを置くと経費が多く掛

るから、之に反して他の多数の会社は何千と云ふ代理店を置いて營業して居る、此多数の店を持つて居る会社と肩を並べて遣つて行く事が出来ると云ふのは、一方には経費が少なくて利益が多く其利益を多く被保険者に戻すと云ふ長所を持つて居るから競争して行けるのである、此辺の事は片寄つた考を有つて商科を出られる人などは理想は相互でなければならぬとか、株式にしなければならぬとか言ふけれども、そんな狭い量見を持つ必要はないと思ふ、要はどちらの組織に依つても宜しい、諸君が世の中に立つて大に働く上に就いては何れ先生方から公平な講義を聴れるだらうと思ふが、唯株式相互の一方に片寄つた考を御持ちにならないやうにしたいと云ふ老婆心から相互組織のみが宜いのぢやないと云ふ事を御聴きに入れた次第であります序にもう少し広告をして置きます私は毎年詰らない年始状を書いて居るが、去年の春は新しい試として小さなパンフレットを出した、それは貯蓄銀行と云ふものは悉く營利的のものばかりである、所が歐羅巴大陸では貯蓄銀行と云ふものは慈善的の計画になつて居るのが多い亜米利加の方はどうかと云ふとも相互組織の貯蓄銀行が多い、即ち貯金をしやうと思ふ者が集つて僕は百円僕は百五十円と云ふ風に貯金し合つて、政府へ願つて許可を得て其中から幹事を拵へて、無資本の貯蓄銀行が出来ます、さうして決算して預金者に払ふ利子以外に利益があると再びそれを会員即預金者に配当して戻すのである細民の貯金を幾分宛集めて何千万円とか預金が出来るとそれを利用して得た利益は全部株主の懷中に捻込んで仕払ふと云ふやうな貯蓄銀

行と云ふものは亞米利加には一つもないと言つて宜しい、之はどうかして僕が生命保険の相互会社を起したる如く銀行界の人達から発起して貰ひたいと云ふ事を忠告したのであります、之れと今一つは新聞と云ふものが余りに営利的になつて言論は総て是れ營業的で一頁何円とか一行何円とか云ふ言論であつて新聞の論説などを読むと此論説を書くには三百円位取るかなと云ふ月俸迄が頭に附いて来る、天下國家の爲めに忠実に言論をして居るやうな立派なのは見当らないのであります、又其言論は兎に角独逸の如きまで皆一種の色が附いて居る、読者の爲めに忠実に報道をして呉れる新聞がないからは是も読者本位の相互主義の新聞を拵へて貰ひたいと忠告した、自分でも機会があれば遣つて見たいと思ふ此二つの意見を公にして置いた、而して貯蓄銀行者に向つて之を遣つて呉れると云ふ事を大分迫つて見た、有名なる二三の者にも交渉して見たが皆従来の行掛りがあつて自分共は遣る事が出来ないから御前が遣つて見たらどうかだ、御前が相互保険と云ふものを日本に持つて来たのだから相互銀行も遣つたら宜いぢやないかと云ふ、併し僕は銀行の事はちつとも知らないから甚だ拙い、保険の事は三十年來遣つて居るから多少安心したが、貯蓄銀行は危いと言ふと、貯蓄銀行と云ふものは何も約束手形の割引をするやうな普通銀行のやうな事はない安全に利殖して行けるものだけに投資すれば保險会社が金を預つて居るのも同じやないか御前の方の重役等に相談して遣れば間違がないと云ふ、口は禍の門で到頭此銀行を遣らなければならぬ事になつて、此一月十三日に払込を済まして二月

一日の創立總會を開き大蔵大臣の検査を得て三月の始に開始する事になり第一相互館の下で開業したのである、さうして私店頭取になつた私は一人一職主義であるが第一相互生命保險会社の社長の外にもう一つ肩書が正七位の上に附く事になりました、併し之は營業的でない無給で遣るが責任の方だけは無限責任、併し素寒貧の無限責任だから有難くはあるまい、そしてどう云ふ組織に依つたかと云ふと、決算して見て營業上の利益が十萬円出たとすれば、其十萬円の中二萬円だけは株主に配当する、アトの八萬円は預金して居つた人に利子を払つた外に之だけは剩つたからと言つて戻して行く、斯う云ふ組織を以て始めたのであります、之はどうも日本の貯蓄銀行条例と云ふものが株式会社でなければ許さないと云ふ事になつて居て相互組織と云ふものを認めないから已むを得ない、相互組織で遣らうとすれば信用組合として遣らなければならぬ、市街地信用組合と云ふものは会員以外の者からも貯金を預る事が出来る所が貸す時には会員に対してしか貸せられないと云ふ事になつて居る、併し会員の株を一株持たせれば貸し得るのだから十円払込二十円払込の株を拵へて此株を持てば御前に一萬円貸して遣らうと云ふ様な事になりまして都合の宜いものが出来て居ます、出来ては居ますけれども信用組合に貯蓄を許したと云ふのは組合員の信用を増加する為なので組合員以外の者の貯金を許したのも矢張組合員に融通の爲にしたのである、信用組合は即ち信用の組合であつて貯金の組合ではない貯蓄銀行は貯金を預つてそれを利殖して行くのが本業である、信用組合は信用の薄弱な者が集つ

て信用を増大する一つの組合に過ぎないのであるから本来の目的が違ふこれを利用すれば貯蓄銀行業が出来ない事はないが、他日信用組合が信用組合の本質に還り貯蓄銀行法は貯蓄銀行の本来の目的に還へる時代が来ると思ふ、故に僕は貯蓄銀行法に従つて百万円の資本を備へて株式会社として造つたのであります今日貯蓄銀行と云ふものは経営が非常に困難である、どう云ふ点が困難であるかと言へば貯蓄銀行に対しては政府が非常にうるさい監督を加へる、而かも預金の三分の一は公債証券で持ち其五分の二だけは公債証券の代りに他の確実な有価証券を以てする事を得ると云ふ事になつて居るから、兎に角五分の一だけは公債証券で持たなければならぬ此所に五千万円の預金を持つて居る貯蓄銀行があるとすると一千万円はいやでも応でも日本帝国公債を持たなければならぬ、之は何の為にそんな干渉をするのかといへば貯蓄銀行は不確実でいかぬから確実にする為めだと云ふので吾吾の考とは丸で違ふ公債証券と云ふものは今迄の発行する度に銀行が引受けて居るが随分厄介なものであります仮りに此所に私が開いた銀行が五千万円の預金が出来たとする、其中一千万円だけはいやでも応でも公債証券を買はなければならぬ、さうして預金が増えれば殖えるに従つて其五分の一は公債証券にして供託しなければならぬのである、で今は公債証券の値段が高いからもう少し下つたらば買はうと思つても法律だから之れを許さない、人間の自由を来縛するの(束)が法律の目的なのだからいやでも応でも買はなければならぬ、一千万円だけ公債証券を買つてから一枚で七円宛も下ると七十万円損が

行く其損金は外の方から吐出して来なければならぬ、さうして預金者には利子を払はなければならず、幾らでも営業費は掛るのだから困難である、銀行などでは成べく財界の事情に通じた者を上に頂いて財界全般の事を見て居つて、小さな金を持つて居る者は個個に自分で運転することが出来ない強いて運転すれば危いから之を集めて皆さんに代つて吾々が脳味噌を搾つて之を安全に利殖して上げるのであるが、政府は不安心だから五分の一だけは公債にしると云ふ、公債証券を償還期迄持つて居れば百円のは必ず百円になるのだから百円以下の時に買つて置きさへすれば差支ありませんが時には百円以上になる事もある百円以上になつた時でも公債を買つて政府へ供託しなければならぬ、それから又仮令百円以下で買つて置いても例へば九十九円で買つたものが決算する時に五円下つて八十五円になつたらば八十五円の公債を持つて居るとして決算しなければならぬ、商法の規定に依つて公債も他の財産と同じく時価に依らねばならないが時価が買つた時よりも五円下つて居るとすれば五円の利がとれても其公債になつて居る財産だけは全く無利息になつて了ふ公債の下つた時に仕方がないから公債だけは額面で計算して置いて宜しいと云ふ法律でも出したらどうかと思ふがさうすれば他日公債の値が下つて来て預金者には現金にして返さなければならぬ時困る之も百円の公債は七十円に下つても矢張百円の値打があるのだから預金は公債で返して宜しいと云ふ事ならば、貯蓄銀行も楽に出来るが今日は斯う云ふ無理な法律になつて居る之は日本政府の公債を消化する為に拵へた法律だ

らうと思ふが私は余程愚な法律だと思ふ併し貯蓄銀行は大蔵省が監督官庁だからそんな事を言ふと酷い目に会はされるかも知れないがさう云ふ法案を上下両院議員などがスラ／＼と通すのだから大分日本なども心細い事になつて来たと思ふ、兎に角さう云ふ法律に依つて遣つて五分の四の財産を旨く利用して政府の危なつかしい公債と云ふものの欠損を埋めて行く考をしなければならぬ、そこで貯蓄銀行と云ふものは皆閉口して仕舞つて合併したり或は廃業して仕舞つたものが沢山ある、政府では郵便局の方へ貯金を集めると云ふやうな考だらうと思ふ此時に當つて貯蓄銀行を新たに起すなど云ふ事は余程狂氣染て居るが、之は何であるかと云ふと貯蓄事業と云ふものに就いて余りに營業的に傾き過ぎて居るのを少し矯正して見たいと云ふやうな物好の考から起つたのであります、其主義を徹底して行くと今日の郵便貯金と云ふものも少し攻撃しなければならぬ事になり、延いては今日の簡易保険と云ふものにも少し疑問があるが漸く活動写真の時間になつた様ですから是等は他日の機会に申上げる事と致しまして今日は是では御免を蒙る事に致します。